

「Ichiro は本当のスーパースターか？」

拝復。

震災から二ヶ月が経ちました。あつという間のような気もしますし、ずいぶん長い時間が経ったような気もします。震災に対する緊急対応という第一ステージは完了をしたのではないかと感じます。復興に向けての第二ステージが始まっています。しかし、膨大な瓦礫の撤去は手付かずで、原発に関してはいまだに解決の糸口さえつかむことが出来ません。4つの原子炉の水棺が終了し原発の周辺の住民が自宅に帰るには少なくとも10年、もしかすると帰る日が来ないかも知れません。悲しい。被災地の方々の悲しみはいかばかりか。人生の無常を感じます。

ちょっとだけ雰囲気を変えたいと思います。今回のテーマは「**Ichiro は本当のスーパースターか？**」です。馬鹿な質問をするな、あれだけの活躍をしている選手がスーパースターに決まっている、と言うのが大方の日本の方の意見だと思います。確かに10年連続200本安打は素晴らしい記録だと思いますし、日本が誇る最もクールな「made in Japan」のひとつだと思います。先日発表になった「最も好きなスポーツ選手」では他を引き離してダントツの一位でした。シーズンオフにはイチローの特番が流れ、CMにも多く出演しています。

ところがその活躍の場である**米国 Major League Baseball (以下は MLB)**では**むしろそうとは思われていない節**があるのです。「そんな、馬鹿なことがあるか!」。今日はここを突き詰めます。**イチロー選手は米国ではCMの話がありません**。なぜでしょうか。

まずは、イチロー選手のこの10年間を振り返ります。

	ゲーム数	打数	得点	ヒット	本塁打	打点	四死球	三振	盗塁	打率	OBP	SLG	OPS
2001	157	692	127	242	8	69	30	53	56	0.350	0.381	0.457	0.838
2002	157	647	111	208	8	51	68	62	31	0.321	0.388	0.425	0.813
2003	159	679	111	212	13	62	36	69	34	0.312	0.352	0.436	0.788
2004	161	704	101	262	8	60	49	63	36	0.372	0.414	0.455	0.869
2005	162	679	111	206	15	68	48	66	33	0.303	0.350	0.436	0.786
2006	161	695	110	224	9	49	49	71	45	0.322	0.370	0.416	0.786
2007	161	678	111	238	6	68	49	77	37	0.351	0.396	0.431	0.827
2008	162	686	103	213	6	42	51	65	43	0.311	0.361	0.386	0.747
2009	146	639	88	225	11	46	32	71	26	0.352	0.386	0.465	0.851
2010	162	680	74	214	6	43	45	86	42	0.315	0.359	0.394	0.754
10年計	1588	6779	1047	2244	90	558	457	683	383				
平均値	159	678	105	224	9	56	46	68	38	0.331	0.376	0.430	0.806

はアメリカンリーグ第一位

まさに輝かしい業績と言うことができるでしょう。出場ゲーム数はリーグ一位でなくても、僅差。打数、ヒット数、も同様です。盗塁もそれに近い。あまり聞きなれない「OBPは出塁率」「SLG

は長打率」「OPSはOBP+SLG」です。近年この中でも「OPS」が注目を集めていて、得点と最も相関関係が高い、ということがわかってきています。イチロー選手はこの三指標ではトップを取ったことはありません。「あれだけたくさんのヒットを打っているイチローの出塁率が低いわけがない」と考えがちですが、ここからイチロー選手の野球に対する考え方が明らかになります。彼の場合、四球がとても少ないのです。2001年を例にとると一年で30個。これは規定打席に達している選手の中では最も少ない。出塁率は

$$\text{出塁率} = (\text{安打} + \text{四球} + \text{死球}) \div (\text{打数} + \text{四球} + \text{死球} + \text{犠飛})$$

で計算されます。従って四球が少ないイチロー選手は出塁率が低くなってしまいます。このことについてイチロー選手は「観客は僕が四球を選ぶのを見に来ているのではない」と明言しています。ついでに言うと三振も少ない。彼の類い稀なバットコントロールが少々ボール球でもバットに当てることが出来るのです。

ここが一つ目のポイントです。以前にこの [Newsletter](#) でご紹介をしたオークランド・アスレックス（現在松井選手が在籍中）が新人選手を取る際の基準にしているのが「出塁率」です。「バッティングには波があっても、四球を選ぶ能力にスランプはない」その号で確かめたデータをご紹介します。

[セ・リーグ] <2007年:チーム別平均得点と打撃成績>

チーム	勝率	平均得点	打率	出塁率	長打率	OPS	新OPS	防御率	守備率
巨人	0.559	4.810	0.276	0.335	0.449	0.783	1.454	3.580	0.99
中日	0.549	4.330	0.261	0.338	0.387	0.725	1.401	3.590	0.987
阪神	0.529	3.600	0.255	0.319	0.368	0.687	1.325	3.560	0.998
横浜	0.497	3.950	0.265	0.324	0.400	0.723	1.372	4.010	0.983
広島	0.423	3.870	0.263	0.318	0.389	0.708	1.343	4.220	0.987
ヤクルト	0.417	4.140	0.269	0.331	0.409	0.740	1.402	4.070	0.983

セリーグ	勝率との相関
平均得点	0.41
打率	-0.01
出塁率	0.44
長打率	0.17
ops	0.24
新ops	0.34
防御率	-0.92
守備率	0.50

なんと、勝率と打率は無相関。出塁率が一番大きな相関を見せています。平均得点での相関では打率も高いのですが、長打率を加えたOPS、新OPSに弱い相関を観察することが出来ます。防御率は少なければ少ないほどいいために逆相関がのぞましいのですが、見事なまでの逆相関。やはりピッチャーは大事ですね。当たり前か（笑）。守備率は評価が難しいので今回のコメントは差し控えます（守備がいいから難しい当たりをぎりぎりでセーフにしたりする事があるからです）。いずれにしても、出塁率と低い防御率。

勝率と最も相関が高いのは投手の防御率です。そりゃそうですね。ピッチャーが点を取られなければ勝てる（MLBには引き分けはありません）。しかしバッティングで言えば打率より長打率より高い相関を持っているのは「出塁率」だと言うことがわかります。

イチロー選手がこの点をご存じないはずはないのです。また打率は四球を増やして打席数を減らしたほうが率としては上がりやすい。この点を称してMLBファンの間では「イチローはヒット数のことばかりを考えていてチームの勝利に貢献しようとしなない」という声が出ているのです。

野球のルールブックには第二項目に野球の目的が書かれています。

1-02 各チームは、相手チームより多くの得点を記録して勝つことを目的とする

非常に明快です。ですから MLB には引き分けがありません。最長 26 回まで、という記録が残っています。イチロー選手はチームの勝利に興味がない、のではと揶揄されます。彼の入団以来のチームの順位を示します。

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
地区順位	1	3	2	4	4	4	2	4	3	4
観客数	350万	354万	327万	294万	272万	248万	267万	232万	219万	205万

一年目こそ地区優勝を果たしましたが、その後は長期低迷。実は西地区は 4 チームしかありません。MLB の中では最も優勝確率が高い地区にもかかわらず、この体たらくです。こんなことから「イチローはチームの成績にこだわらない」と言われます。また別の声としては「イチローはどのようにして優勝の可能性の高い球団に移籍しようとししないのか?」。日本ではイチロー選手といえば MLB でも屈指のスーパースターのような報道をされますが、盛り上がっているのは日本とシアトルだけ。「万年弱体チームにあって自分のヒットの記録にしか興味がない」選手だとすれば、スーパースターの資格はなく、普通のスター選手どまり、といったところでしょうか。ちなみに地区優勝した 2001 年、彼は年間の MVP に選出されています。MVP は優勝に貢献した人に与えられる賞です。日本のテレビ番組がイチローの特集を組んでも誰もその年のマリナー



ズ の成績のことには触れません。

もう一つ指摘をしましょう。イチロー選手は内野安打が非常に多いのです。彼のデビューの年、おそらく MLB は驚愕したと思います。何しろ普通の内野ゴロがヒットになってしまうのですから。「内野ゴロを打ったら全力で走らない」文化があった。投手と打者の一騎打ち。負けたら潔く負けよ。この不文律から言うとイチロー選手は「せこい」(slap shot) と見えているようです。足で稼いだヒットは立派なヒットですが、米国人の考え方は違います。

記録に対する考え方もそうです。年間最多安打 262 本、MLB のシスラーの持つ記録を塗り替えました。日本では大騒ぎでしたが、米国ではそれほど大きな話題ではありませんでした。私は当時から MLB の公式ページを読んでいましたから、身をもって知っています。残念ながら一面トップ(?)になる話題ではありませんでした。むしろ 2009 年のワールドシリーズで MVP に選ばれた松井選手のほうが登場回数も扱い方もはるかに大きかった。MLB のファンはライナーのヒットや豪快なホームランを好みます。そうした大味と申し上げては失礼かもしれませんが、野球観の中では「イチロー」はちょっと地味な存在です。

イチロー選手がスーパースターになるためには、二つの記録超えが考えられます。一つ目は

打率 4 割。 1941 年のテッド・ウイリアムズ以来 70 年間誰も超えることが出来ません。ご興味がある方は[こちら](#)をどうぞ。しかし、イチロー選手のような四球を好まない打者にとっては厳しい。また、現代野球のように変化球を何種類も投げてる中では至難の業でしょう。もう一つは**最多連続試合安打**。ジョー・ディマジオが 1941 年に達成した 56 試合です。日本記録は元広島の高橋慶彦が作った 33 試合連続。イチロー選手自身は 30 試合連続が最高。両方とも非常に壁が高い記録である、チャンスは多くありません(T_T)。

彼が地味であると思われているとしても、彼の野球選手としての凄さは変わりません。これまでは打撃成績だけを見てきましたが、野球は「走・攻・守」の三つの要素があります。まず盗塁。残念ながらまだ盗塁王になったことはありませんが、常にリーグのトップクラスです。しかし、盗塁はそれほどの評価の対象とはなっていません。

もう一つは「守備」です。野球では守備に関してはほとんど指標がありません。イチロー選手が全米の度肝を抜いたのが「[2001 年のレーザービーム](#)」(YouTube) でしょう。実況のアナウンサーが「perfect! Perfect! Perfect! Wow!!!」と叫んだことを良く覚えています。あれで対戦球団はライトに飛んだヒットではホームに帰ってこられなくなりました。また足が速くて判断が的確なので、現在の MLB では随一の守備範囲と言われています。

これらのことを米国人が全く評価していないかと言うと、そんなことはありません。その証拠にイチロー選手は十年連続してオールスターファン投票で選出されています。冷静に考えると彼は超一流の野球選手なのです。しかし、スーパースターかという残念ながら米国基準ではない。

私は今回、イチロー選手を取り上げるにあたっていろいろな資料を探しました。本当の意味での彼の強さは、**怪我をせず「ほとんど全試合に出場している」**ことだと感じました。10 年間、体の鍛錬を怠らず、ウォーミングアップをする姿は MLB の選手の中で尊敬の対象となっています。試合後もマッサージを欠かさず次の試合への準備を怠りません。イチロー選手は大雑把な米国人には、ちょっと響かない「大人のスーパースター」なのかも。寡黙なイチロー選手は「日本のサムライ」のように見えているのかもしれない。英語も覚えなし(T_T)。

でも、やっぱりヤンキースやレッドソックスで活躍する、彼の活躍を見たい、と言うのは贅沢なのでしょうか。いや、やっぱり見たいぞ^^;

ブログも毎日更新しています！(週休二日で)(笑)。<http://rresearch.blog103.fc2.com/>
株式会社 Bomb Marketing 〒185-0023 東京都国分寺市西元町 2-16-18 日建工事第一ビル 302
Tel : 042-300-0533 mobile : 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp